

学校推薦型選抜（小論文） 2024 年度過去問題

学校推薦型選抜〔特技推薦・書道部門〕

問. 井島勉著の「書の美学と書教育」の芸術と古典の関係を述べた一説である。
この言葉を参考にしつつ、自身の書と古典についての考え方や思い、これからの書を学んでいく上での
抱負も含めて、800 字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。

「優れた芸術は、常に独創によって形成されるほかはないが、それは内に深く普遍者を宿しているが故に、制作者以外のすべての人間に向って、いわば美の一つの範例として、普遍的に妥当することができる。古い時代の芸術が、後の時代の人々に対して、このような範例性を確保していると考えられる時に、それは特に古典といわれる。古典が尊重されるのは、それが古い過去に作られたことによるのではない。今もなお生きている故に、いいかえると、常に新しい生命を保持しているが故に、貴重なのである。そしてこのことは、古典が、個人を超え時代を超えて妥当する悠久な普遍によって支持され、これを正しく代表しているからにほかならない。」

（出典：井島 勉『書の美学と書教育』9 ページ、墨美社、1956 年）

学校推薦型選抜〔総合学科専門学科推薦〕

問. 下記の文章は、「量が質に転化する…」というタイトルのコラム記事です。この記事のように、コロナ禍の教訓を踏まえると、今後の日本のインバウンド観光はどうあるべきなのでしょう。あなたの考えを 800 字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。

量が質に転化する。学生の頃、受験や部活でよく聞いた言葉だ。量をこなせば質も高まるという趣旨だが、経験から言えば、がむしゃらに突き進んでも手法がまずければ効果は低い▲観光地に人出が戻ってきた。今年のインバウンド需要はコロナ禍の前を上回るとの予測もある。とはいえ感染は収束しておらず、油断は禁物。オーバーツーリズムのような弊害の再来も避けたい▲政府が観光政策の「量から質」への転換を目指すという。訪日客数のような数値目標の達成に固執するのではなく、観光地が住みやすくなる施策にシフトするなら賛成だ。不安定な雇用を改善し、混雑や環境破壊を招かない観光のあり方を示せるか、知恵の絞りどころだ▲集客は代理店頼み。繁閑差や価格競争が激しく利益が出ない。そうした体質の見直しを迫られていた産業だが、インバウンドの追い風が先送りを許してきた。需要が一気に消滅したコロナ禍は、課題に向き合う契機にもなったはずだ▲観光政策に詳しい宮崎俊哉・三菱総研主席研究員は「再生の芽も見えてきた」と話す。コロナ禍でも、近隣からの来訪を促して収益を維持するといった事例が出てきた。訪日客は回復しているが、政府の支援には頼れなくなる。事業者の新たな取り組みに期待したい▲欧州連合（EU）が昨年公表した観光政策も数値目標を設けず、環境への配慮や地場産業の育成に重点を置いた。住民や働き手が安心して暮らせない観光地では、おもてなしの心も曇ってしまう。

（出典：「余録：量が質に転化する…」『毎日新聞』2023 年 5 月 7 日朝刊、1 面）